

2024年6月15日

2023年度京都保健会事業報告

公益社団法人 京都保健会 定時社員総会

2023年度は大変厳しい赤字決算となりました。2023年度は4月の厳しい経営結果を受けて5月の常務理事会で経営アピールを出し予測される事態を打開すべく各事業所の活動強化を提起しました。各事業所は提起に応え、地域の医療機関・介護事業所への訪問、広報の強化、地域に向けた共同組織活動の再開など急速に「動」を強めました。いくつかの事業所では変化を作ってきましたが、全体としては事態を打開するには至っていません。

在宅分野・介護分野の事業の充実と、医療と介護の連携強化に向けて、新たに中央地域、上京地域、南地域、あやべエリアで医療・介護連携協議会を設置しました。

京都保健会 IT化推進戦略に沿って、12月1日に吉祥院病院の電子カルテ更新、12月4日に久世診療所の電子カルテ導入を遂行しました。

SDGs推進委員会を軸に、気候正義の実現に向けたとりくみをPDCAサイクルに乗せて推進しはじめています。

無料低額診療事業の診療費減免額は前年度から若干減少しました。

テーマごとの2023年度事業報告は以下のとおりです。

① 病院

中央 急性期一般入院料1の要件を維持、8月1日紹介受診重点医療機関の公表
手術用ロボット導入に向けたPJ開始

吉祥院 訪問診療をやや拡大しました。医師体制を確保（4月に1名在宅専門医研修）

協立 経営改善PJ設置、紹介入院数増加。4月に医師1名を受入。

② 診療所

太子道 在宅診療を大きく拡大、健診受診者の増加をはかりました。

その他 かかりつけ医機能の目標指標を明確化しました。

診療所所長交代 2024年4月に太子道、たんご協立、九条各診療所を完了しました。

③ 在宅

管理件数は前年度からは増加しました。

④ 介護

介護収益は予算未達も前年からは増加しました。

⑤ 京都大学社会健康医学との協働の推進

京都大学との共同研究事業としてジェネラリスト育成コースを進化させた民医連 MBA を開講し、17名が受講しました。

⑥ 共同組織

会員と『いつでも元気』誌は、いずれも目標未達。

⑦ 医師の働き方改革、医師の確保と養成

働き方改革は、A水準（超過勤務月 960 時間以内）を満たしています。

医師の確保は、中央病院で、研修医 5、専攻医 5（内科 3、総合診療 2）、キャリア医師 7（消内 1、小児 1、腎内 1、泌 1、脳外 1、内 2）、計 15（前年度 22）。吉祥院病院（内 1）、京都協立病院（内 1）も医師を確保しました。

⑧ 看護職の確保と育成、看護幹部体制の確立

急性期と在宅との連携強化にて、中央地域を中心に管理者のローテーションやスタッフの異動をすすめました。

⑨ リハビリテーション分野の展開

リハビリ職員 8 名を採用しました。

⑩ 京都保健会事務局の BCP 策定

策定 PJ を軸に検討しています。

⑪ 法人人事部機能の強化

定期的な育成面接を実施。事業所ラウンドを実施しています。

⑫ 他法人との連携

医療法人葵会、社会福祉法人保健福祉の会との協力と連携をすすめています。

以上